

法政大学 同窓会会報

社会学部同窓会

第10号

発行 法政大学
社会学部同窓会事務局
(月・水)

住所 〒194-02
東京都町田市相原町4342
☎・FAX 0427-83-2421

社会学部の前史を語る

——中央労働学園設立五〇周年——
——鳥居俊夫さん、若林章雄さん——

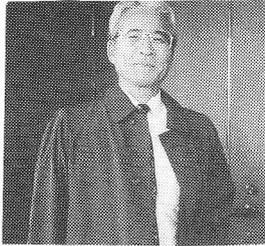
一九四六年八月、財団法人・協調会解散の後を継いで財団法人・中央労働学園が設立されました。一九四七年四月、中央労働学園専門学校が創設されました。一九四九年、新学制の実施に伴って、新たに学校法人となった中央労働学園が経営する中央労働学園大学が発足しました。専門学校の一学年は大学の一年生に移りました。しかし、同大学は経営困難に陥り法政大学に合併されることになりました。

一九五一年八月、中央労働学園大学社会学部は法政大学社会学部として再出発することになりました。

今年、一九九六年は、中央労働学園設立五〇周年にあたります。この機会に、中央労働学園大学時代に事務局を担当されていた鳥居俊夫さんと若林章雄さんのお二人に、当時の思い出をいろいろと語っていただくことにしました。聞き手は、『同窓会会報』編集部の高橋です。

新しく選出された卒業生評議員

黒坂 一久氏の挨拶



先般八月上旬に行われました法政大学卒業生評議員選挙に際しましては、同窓生の皆様方の絶大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご支援をいただきました結果、五〇八票のご支持により当選することができました。ここに紙面

をお借りして深く感謝を申し上げます。

今後は法政大学の教学改革や、市ヶ谷校地の再開発など主要な案件に関して卒業生評議員二十八人の一人として、責任ある職務を皆様方より任せられましたことを厳粛に受け止め、最善の努力を尽くす決意でございます。

このうえも同窓生の多くの皆様方のご意見を拝聴いたしまして「自由と進歩」、「開かれた学風」

出版)を引き継ぐべき新団体として、「労働問題を研究する学徒団体として、「假稱・中央労働学園」という試案がコーエンから出され事実上決定したのではないかと思えます。この推測は、当時の占領軍司令部の、一方協調会との継続関係

——新発足の中央労働学園は、協調会との継続ではなく断絶を強調していたと聞きます。

鳥居 その通りでした。学生に学園の説明をするにあたっては、かつての労使協調団体である協調会とは縁が切れているんだということをしきりに協調しました。そうせざるを得ない当時の情勢でした。

——協調会から中労学園へ移籍し、その後、中央労働学園大学の教授になつた。

法政大学の百十五年の歴史の重さを二十一世紀に向け真に前進させるべく、評議員会に役立てればと感じております。

今後とも皆様方のご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ここに、ご支援を賜りました多くの皆様方に御礼のご挨拶とご報告を申し上げます。

法政大学評議員
社会学部同窓会会長
黒坂 一久

的な指示命令の出し方、協調会の置かれていた立場およびその後の経過からみては間違いないと思えます。

若林 コーエンがセントラル・レイバー・カレッジにしると言ったと聞いています。

た人たちはどういう方がおられましたか。

鳥居 村山重忠、栢野晴夫、山本巖、などの先生が協調会関係者でした。

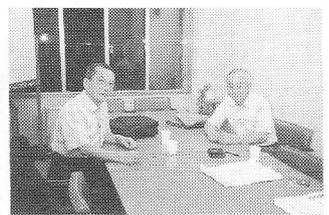
永野順造さん(賃金、生活問題)なども囑託として調査の仕事にたずさわっていましたが、中労学園に引き継がれていません。中島正、逸見重雄、長谷川博、近江谷駒(小牧近江)、柘植秀臣、村井康男、湯川和夫、桜井庄太郎(社会学)などの諸先生は中労学園段階で採用された方たちです。

若林 私は、中労学園の発足当初職員として採用された一人ですが、ちょうどその時、逸見重雄先生の解雇問題(病気のため長期欠勤)があり、激しい復讐争いにつづき驚きました。

盛況だった専門学校
——旧制の専門学校はかなり人気が高かったと聞きます。新制大学で大学に昇格できたのに、そこで経営が苦しくなったのはなぜだったのでしょうか。

鳥居 たしかに専門学校時代は活気がありました。本科は昼の課程が三年、夜の課程が四年で、ほかに夜間一年制の別科がありました。

(二頁へつづく)



(左、鳥居さん、右、若林さん)